

## 学校活動の再開にあたり考えること

男声合唱団イル・カンパニーレ  
霜崎 大知 SHIMOZAKI Daichi

第10号で「歌のない世界と私」を寄稿させていただきました霜崎です。前回は、自身の音楽活動を中心に書かせていただきましたが、今回は学校活動と音楽について書きたいと思っています。

4月に新採用として勤めはじめ、担任として学級も受け持っています。しかし、緊急事態宣言拡大に伴う休校要請により、再び長い休みに入りました。規制緩和により学校も徐々に再開しますが、感染防止のため様々な制約の中で過ごしていくことになります。音楽も例外ではなく、文部科学省は4月6日付で、**感染症対策を講じてもなお感染の高い教科・実技内容として『音楽科における歌唱指導』を挙げて**います。

歌うのを我慢すること。これは小学生にとっては大きな影響があることだと思っています。小学校は音楽が身近にあるからです。

音楽の授業は勿論ですが、例えば朝の会に歌を歌うこともあれば、給食時に流行の曲を流す、さらには掃除の時間や休み時間の終わりにも合図として音楽を流すこともあるかと思えます。

「歌うのは控えること」となっている以上、「歌唱」に充てていた時間をどのように活用すればよいかを考えなければなりません。持ち時間数の関係で、今年度は音楽の授業を担当していないのですが、朝の歌の時間は学級担任を持っているので毎日あります。歌えないことは仕方のないことなので、「季節の歌」や「テンションの上がるような曲」などをかけて、1日を楽しく過ごしたくなるような時間にしたいといまは考えています。

徐々に子どもたちに会うので、私はとても緊張しています。しかし、子どもたちはそれ以上に緊張し、学習やコロナウイルスに対する不安があるでしょう。私にできるのは、子どもたちが「学校に行きたい。クラスに行きたい。」と思う場所（教室）をしっかり整えることだと思います。「音楽（コロナが落ち着いたら歌）の響く教室」を目指して、頑張ります。



合唱あるある

男声合唱団  
APERTAS  
「アペルトス君」  
イラスト入り  
高級マスク  
〈アペノマスク〉

イラスト／縫製  
松川 大  
MATSUKAWA  
Hiroshi

川越東高校・星野学  
園中学校講師

アペルトス代表  
埼玉県合唱連盟  
理事

